

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	尚絅学院大学
設置者名	学校法人尚絅学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文社会学群	人文社会学類	—	5	—	18	23	13	
心理・教育学群	心理学類	—	9	2	2	13	13	
	子ども学類	—	9	2	20	31	13	
	学校教育学類	—	9	2	19	30	13	
健康栄養学群	健康栄養学類	—	11	—	2	13	13	
総合人間科学部	表現文化学科	—	12	—	14	26	13	
	人間心理学科	—	12	—	34	46	13	
	子ども学科	—	12	—	68	80	13	
	現代社会学科	—	12	—	8	20	13	
	環境構想学科	—	12	—	20	32	13	
	健康栄養学科	—	12	—	20	32	13	
(備考) 人文社会学群、心理・教育学群、健康栄養学群は1年次のみ開講、総合人間科学部は2～4年次のみ開講しているため、開講年次に基づく単位数のみ記載している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「実務経験のある教員による授業科目一覧」 https://www.shokei.jp/campuslife/experience.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	尚絅学院大学
設置者名	学校法人尚絅学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学院ホームページ「役員一覧」 http://ap.shokei.jp/data/officer.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	建築デベロッパー 執行役員財務経理部 長	2019/6/1～ 2021/9/21	学校法人経営 (財務・人事・労務)
非常勤	自治体 教育委員会 教育長	2018/9/22～ 2021/9/21	学校運営、自治体連 携(教育)
非常勤	学校法人 幼稚園教 諭	2018/9/22～ 2021/9/21	同窓会連携、幼稚園 運営
非常勤	シルバー人材センタ ー 理事長	2018/9/22～ 2021/9/21	自治体連携(労務)
非常勤	県立大学 評議員	2018/9/22～ 2021/9/21	大学、教育・研究
非常勤	学校法人 高等学校 校長	2018/9/22～ 2021/9/21	中学校・高等学校経 営/運営
非常勤	法律事務所 所長	2018/9/22～ 2021/9/21	法務(人事・労務)
非常勤	学校法人 理事長	2018/9/22～ 2021/9/21	産業界連携、幼稚園 運営
非常勤	総合商社 代表取締 役社長	2018/9/22～ 2021/9/21	産業界連携、キリス ト教教育

非常勤	学校法人 学院長	2018/9/22～ 2021/9/21	キリスト教教育
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	尚綱学院大学
設置者名	学校法人尚綱学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全科目担当者に配付している『シラバス作成要領』において、シラバスで指定する項目の記入方法を記載している。特に「授業の到達目標・達成レベルの目安」「授業のテーマ・概要」「授業の方法」「成績評価方法・評価基準」については、記載方法が統一になるよう例文を示す等、詳細に記載している。</p> <p>開講前年度の12月よりシラバス作成を開始し、1月より学類長や教務部委員によるシラバスチェックを行っている。作成したシラバスは開講前年度の3月下旬に学生ポータルサイトに掲載している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページ「大学・大学院シラバス検索」 (※学生ポータルサイトトップ画面よりリンク遷移) https://cpmate.shokei.ac.jp/campusweb/top.do</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>全科目担当者に配付している『シラバス作成要領』(刊行物)において、成績評価の「種別」「種別ごとの割合」「評価基準」の記載方法を周知し、科目ごとにシラバスで明示して学生に開示している。科目担当者はシラバスに明示した成績評価の基準に準じて評価を行っている。</p> <p>また、適切なレポート評価を行うために、「レポート評価コモンルーブリック」を作成し、教員への利用推奨と履修ガイドを通じて学生への開示を行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の学習成果の達成意欲を高めるとともに、適切な履修指導や学修支援をする目的でGPA制度を導入している。「(履修登録単位数×その科目のGP)」を「履修登録単位数の合計」を除算し、算出している。また、成績通知書及び学生ポータルサイト上にGPA数値を公表し、学生本人のみならず、保護者にも周知している。

成績の分布状況の把握方法として、学生ポータルサイトの検索条件の中にGPAの分布範囲を任意で設定し、該当する学生をリストアップする機能がある。全教職員は学生のGPAの年度推移、単位修得状況の年度推移などをグラフ表示、時系列、相対表示など視覚的に閲覧し、把握できるようになっている。これにより、成績不振者に対しては、学科・学類単位で、面談を実施し面談結果の所見をポータルサイトに登録し、関連する教職員間で情報共有をしている。

さらに、年度GPA1.0未滿となった学生に対しては、保護者等呼び出し、アドバイザーによる指導を行っている。年度GPA1.0未滿が2回連続し、かつ累積GPAが1.0未滿となる学生に対しては教授会の議を経て退学勧告を行うなどの指導を行っている。

<GPAの算出方法>

$$GPA = (\text{履修登録単位数} \times \text{その科目のGP}) / (\text{履修登録単位数の合計})$$

※小数点第3位以下を切り捨て、小数点第2位までを算出する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページ「単位・授業等」

<https://www.shokei.jp/campuslife/credit.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

教育目的を達成するための、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）をカリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）とともに公表している。また、全学のディプロマ・ポリシーに加え、学類ごとのディプロマ・ポリシーを設定している。

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・態度を育成するためにカリキュラム・ポリシーを策定しており、カリキュラム・ポリシーを基に展開された各科目を修得し、所定の単位数を修得することで卒業を認定している。

また、全学のディプロマ・ポリシーで掲げる9項目については、学習目標（カリキュラムマップ）として、カリキュラムの中に位置づけ（履修ガイドで授業科目ごとに獲得できる能力について、ディプロマ・ポリシーとの関連性を可視化）している。

(以下、全学のディプロマ・ポリシー)

本学における所定の課程を修め、建学の精神を踏まえ、予測困難で変化の激しい現代社会の様々な課題に主体的に取り組んでいくメンタリティと教養を備え、多様化の進むグローバル社会にあって総合的な人間理解のための基礎的知識を身につけ、これらを総合して地域社会に貢献する能力と行動力を身につけた者に、卒業を認め、学士の学位を授与します。

具体的には、以下の能力の獲得、態度の涵養を重視します。

1. 共感力（自分に誇りを持ち、他者との違いを理解した上で、他者を尊敬する力）
2. 協働力（チームワーク、リーダーシップ）
3. 自己管理能力
4. 挑戦する力
5. コミュニケーション能力
6. 専門分野を越えた基礎的・汎用的知識やスキル
7. グローバルな視野・地域的志向
8. 倫理観、社会的責任感
9. 批判的思考力・創造的思考力

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページ「教育方針」
<https://www.shokei.jp/guide/policy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	尚綱学院大学
設置者名	学校法人 尚綱学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学院ホームページ「2018(平成30)年度 事業報告」 http://ap.shokei.jp/data/pdf/2018houkoku.pdf
収支計算書又は損益計算書	本学院ホームページ「2018(平成30)年度 事業報告」 http://ap.shokei.jp/data/pdf/2018houkoku.pdf
財産目録	本学院ホームページ「2018(平成30)年度 事業報告」 http://ap.shokei.jp/data/pdf/2018houkoku.pdf
事業報告書	本学院ホームページ「2018(平成30)年度 事業報告」 http://ap.shokei.jp/data/pdf/2018houkoku.pdf
監事による監査報告(書)	本学院ホームページ「2018(平成30)年度 事業報告」 http://ap.shokei.jp/data/pdf/2018houkoku.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:尚綱学院事業計画 対象年度:2019年度)
公表方法:本学院ホームページ http://ap.shokei.jp/data/pdf/2019keikaku.pdf
中長期計画(名称:Mission 19 Goodness ~時代を生き抜く力~ 対象年度:2019年度)
公表方法:本学ホームページ「第4次中期計画(概要版)」 https://www.shokei.jp/guide/plan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学ホームページ「自己点検評価」 https://www.shokei.jp/guide/jihee.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学ホームページ「自己点検評価」 https://www.shokei.jp/guide/jihee.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会学群
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「教育理念・目的」 https://www.shokei.jp/guide/spirit.html ）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の様々な課題に明確な問題意識を持って向き合い、他者と協働して課題解決に貢献できる人材を養成する。 ・現代の社会とそれを構成する人間についての理解、及び人間が生み出す文化、コミュニティ、及びそれらの相互関連や人間や社会の環境との関わりを理解し、複眼的視点で現代社会の課題解決に主体的に取り組む能力を身につけることを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>人文社会学類では、全学共通の能力に加え、人文社会学を構成する諸領域についての基礎的知識と、以下に掲げる力を身につけ、学則に定める所定の単位を修得した者に学士の学位（人文社会学）を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識と複眼的視点を持って現代社会の事象を読み解く力 2. 文化や社会の多様性を理解し、自己の見方を相対化する力 3. 深い人間理解のもと多様性を認め合い、他者とともに協働し実践する力 4. 専門的知識とスキルを活かし、地域・社会の課題を発見し課題解決への道筋を提言・表現する力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>学群の専門教育科目を以下の区分に分け、学生の興味・関心に応じて、段階的・体系的な履修ができるよう授業科目を配置している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学群に所属する全学生が学群の基盤となる学問分野の基礎的な知識について人間・社会・文化の視点から学ぶことができる「専門基礎科目」を配置している。 2. 人間・社会・文化に関する学問分野の広がりを選び専門性を高める科目、および実践的学びにつながる演習、情報処理スキルを身につけることができる演習を「専門展開科目」として配置している。 3. 専門展開科目の内容を発展させ、専門展開科目で修得した知識や技能をさらに高める科目および学びのテーマに応じたフィールドワーク、実践的活動を行う実習や演習を「専門応用科目」として配置している。 4. 学びの幅を広げ、学生固有の能力の伸長を目指すことができる「関連科目」を配置している。 5. 獲得した知識・技能を総合的に活用し、実践的な演習・実習を行う科目及び卒業研究を「総合科目」とし必修科目として配置している。 6. 上記の学群の専門教育科目に加え資格取得を目指すことができる「自由科目」を配置している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html ）

<p>(概要)</p> <p>人文社会学群人文社会学類では、現代社会の様々な課題に明確な問題意識をもって向き合い、他者と協働して課題解決に貢献する人材を育てることを目指している。</p> <p>次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学での4年間の学修に必要な基礎学力のある人 2. 自分の興味関心、将来の目標に向かって明確な学修意欲のある人 <ol style="list-style-type: none"> ①社会の制度や政策に関心がある人 ②地域の産業や復興に関心がある人 ③地域の環境や暮らしに関心がある人 ④外国文化や国際交流に関心がある人 ⑤映像やメディアに関心がある人 3. 既存の学問分野の枠を超えて、幅広く学び、より広い視野で世界をみようと考えている人 4. 他者を理解し自己を表現できる能力を身につけ、卒業後、国内外を問わず様々な地域、社会で活躍を目指す人

<p>学部等名 心理・教育学群</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「教育理念・目的」 https://www.shokei.jp/guide/spirit.html）</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな想像力と他者への共感力を有し、理論に裏付けられた高度な教育学的・心理学的専門性と実践力を身につけた専門家を養成する。 ・人間の心や行動、発達や人間関係などを科学的に研究でき、同時に地域社会のために適用し実践できる能力の修得を目指す。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>心理・教育学群では、全学共通の能力に加え、豊かな想像力と他者への共感力、また倫理観と理論に裏付けられた高度な教育学的・心理学的専門性と実践力を身につけた者に、学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>心理・教育学群の教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を育成するため、次の方針に沿って編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学群に所属する全学生が心理学・教育学の基礎を学び、人の心や成長に関する幅広い視野を身につけることができるよう、共通に学ぶ「学群基礎科目」を配置する。 2. 各学類に、心理学・教育学の高度な知識と理論を学ぶ科目群を配置する。 3. 心理支援や保育・教育の現場での実践的な学びを重視します。このため、各学類の特性に応じた実習科目を配置する。 4. 学生がそれぞれの興味に応じて多面的に物事を見る視点を獲得できるよう、所属学類を越えた履修を可能とする。 5. 身につけた知識を統合し、自ら設定した課題について主体的に学ぶ「卒業研究」を必修科目として配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>心理・教育学群では、豊かな想像力と他者への共感力を持ち、高い専門性と実践力を身につけた心理学・教育学の専門家を養成する。そのため、人間の心や行動、発達や関係などについて科学的に学ぶ意欲があり、獲得した知識を他者や社会のために生かしたいと考える学生を求める。</p>
<p>学部等名 健康栄養学群</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「教育理念・目的」 https://www.shokei.jp/guide/spirit.html ）</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食と健康」に関する専門知識や技術を習得するとともに、人を思いやる心や人に伝えるコミュニケーション能力を持った人間性豊かな人材を養成する。 ・個々の生活者の生活環境や特性に応じた望ましい生活のあり方を食・栄養を中心に提案し、その実現に向けて総合的に支援できる能力を身につけることを目的とする。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html ）</p>
<p>(概要)</p> <p>健康栄養学群・健康栄養学類では、全学共通の学修目標に加え、以下のような目標に到達し学則に定める所定の単位を修得した者に、学士（栄養学）を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力を養い、自分を取り巻くさまざまな事柄に対する理解を深められること 2. 栄養士・管理栄養士に必要な基本的な技術を身につけ、さらに積極的に活用し、技術の向上に努める態度を身につけること 3. 食と健康にかかわる課題に対して問題意識を持ち、解決する能力を身につけること 日々発展する食および健康に関する新しい情報や技術を積極的に受容できること 4. これらをもとに、栄養と健康の観点から個々の生活者の生活環境や特性に合わせた望ましい生活のあり方を提案し、その実現を支援・評価する能力を身につけること
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html ）</p>
<p>(概要)</p> <p>学群の専門教育科目を以下の区分に分け、学生の興味・関心に応じて、段階的・体系的な履修ができるよう授業科目を配置している。</p> <p>幅広い視野と人を思いやる心、高いコミュニケーション能力、共働する素養を養うためにキリスト教に立脚した建学の精神、およびリベラルアーツ、キャリアデザイン、言語などに関する科目を教養教育科目に配置する。そして、1年次には専門的な学びへの導入として「基盤演習Ⅰ」並びに「基盤演習Ⅱ」を配置する。</p> <p>専門基礎科目および専門科目では、実験や実習、演習科目を多く配置して、自ら体験を通して講義で得た知識に対する理解の深化とその活用力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 2年次：自然科学を中心とした社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康に関する専門基礎科目を配置する。 2, 3年次：給食経営管理、臨床栄養学、栄養教育論、公衆栄養学などの専門科目を配置し、学外実習に向けて栄養に関する専門知識を学び、3年次の学外実習によって実践力を身に付ける。 4年次：卒業研究および管理栄養士活動論を配置し、学生自らの興味や問題意識をもとに主体的、総合的に学び、疑問や問題を解決するための姿勢・能力を養う。 さらに、3, 4年次には、食に関するより幅広い視野と実践力を身に付け、新しい職務

形態に対応できる能力を育てるため、食品開発論など食品の生産・製造・流通・サービスに関する科目、および自発的に挑戦する意欲と実践力を養うための挑戦プログラムや、最新の情報を活用する力を養う先端栄養学研究を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「教育方針」
<https://www.shokei.jp/guide/policy.html>）

（概要）

健康栄養学群健康栄養学類は、栄養士法による管理栄養士養成施設として国の認可を受けた管理栄養士養成課程であり、食と健康の関りに強い関心を持ち、将来食の専門家として人々の QOL の向上に貢献することに強い意欲を持った人を求めている。次のような学生を求めている。

1. 管理栄養士として、医療、介護福祉、健康支援行政などの分野で仕事をしたい人
2. 栄養教諭、学校栄養士として、食育、学校給食などの分野で仕事をしたい人
3. 食の専門家として、食品の生産、流通などの分野で仕事をしたい人
4. 大学院に進学して、栄養科学の分野で研究能力を養いたい人

学部等名 総合人間科学部

教育研究上の目的（公表方法：学生生活ガイドブックで公開
※募集停止に伴い、ホームページから削除）

（概要）

・表現文化学科：

メディアが多様化し、コミュニケーションの方法も変わっていくなか、社会のさまざまな場で活用できる表現力の育成を目指す。文化の歴史やしくみを理解し、「読む」「書く」「話す」「視覚表現で伝える」といった能力を身につけ、「伝わる」表現力を身につけた人材を養成する。

・人間心理学科：

人間を多様な角度から理解し、他者への想像力が豊かで、共感に裏付けられたケアリング・マインドをもった人材の育成をめざしている。そのため各種心理学を本格的に学び、人間の心と行動のメカニズムや法則性を科学的に解明すると同時に、人間学（哲学、神学・宗教学、教育学）も学び、科学そのものの意味を問い直し、人間の生き方や在り方の根本まで掘り下げていく。このように心理学系学問と人間学系学問とを融合した学びを通して人間理解の多様性を獲得しそれを発展させていく。

・子ども学科：

子どもを科学的・総合的に理解した上で、その全人的な成長・発達に向けた支援と教育に取り組み、保護者の相談や対応に優れ、地域の子育て支援にも貢献できる「子どもの専門家」の養成を目指している。子どもに関する十分な知識と援助技術を身につけ、子どもの最善の利益を守る倫理観を有する感性豊かな人物の育成が、子ども学科の目的となる。

・現代社会学科：

人間性尊重の視点から、多様な専門領域を横断しつつ、複眼的な方法を用いて現代社会を探究し、現実を多角的・包括的に理解することをめざす。現代社会学科の目標は、東北に力点をおきながら現代社会に生じる諸問題の実践的な問題解決能力を身につけた「人財」を社会に送り出すことにある。

・環境構想学科：

市民・行政・企業が積極的に環境問題に取り組む現在、持続可能な社会を構想し、

実現する人材になるために「地域環境」「都市環境」「生活環境」の各専門分野を学ぶ。恵み豊かな地球を次世代に引き継ぐことは、今に生きる私たちの最重要課題です。そのために、グローバルな思考とローカルな思考を共に育み、幸せな未来を実現するための理念と行動力を身につける。

・健康栄養学科：

健康栄養学科は、「食と健康」に関する基礎から専門に至る幅広い知識や技術を習得するとともに、人を思いやる心を養い、人間性豊かな栄養士・管理栄養士として人々の Quality of life の向上に貢献する高い実践力を身につけ、将来疾病の予防・治療、介護福祉、食品の生産・流通、健康支援、食育等の分野で活躍することを目指す人に適した学科である。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学生生活ガイドブックで公開

※募集停止に伴い、ホームページから削除）

（概要）

本学における所定の課程を修め、建学の精神を踏まえ、予測困難で変化の激しい現代社会の様々な課題に主体的に取り組んでいくメンタリティと教養を備え、多様化の進むグローバル社会にあって総合的な人間理解のための基礎的知識を身につけ、これらを総合して地域社会に貢献する能力と行動力を身につけた者に、卒業を認め、学士の学位を授与する。

具体的には、以下の能力の獲得、態度の涵養を重視する。

1. メンタリティ

- ①共感力（自分に誇りを持ち、他者との違いを理解した上で、他者を尊敬する力）
- ②倫理観、社会的責任感
- ③コミュニケーション能力

2. 知識・技能と教養

- ①学部共通・学科専門分野における基礎的・専門的な知識・技能
- ②批判的思考力・創造的思考力
- ③グローバルな視野・地域的志向

3. 行動力

- ①自己管理能力
- ②協働力（チームワーク、リーダーシップ）
- ③挑戦する力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生生活ガイドブックで公開

※募集停止に伴い、ホームページから削除）

（概要）

本学の教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・態度を育成するため、次の方針に沿って編成・実施する。

1. 共通教育科目のみならず、専門教育科目においても、大学全体としてのディプロマ・ポリシーとの関連を意識した到達目標を掲げ、必修科目、選択科目を体系的に配置し、履修の要件を設定します。カリキュラム系統図、カリキュラムマップなどを明示するとともに、個々の学生に体系的な学びができるよう支援する。
2. 学生の入学前の学習状況に配慮しつつ、大学の学びへと早期に転換を促す授業科目を配置する。
3. 多様な学生に対応し、また総合力を育成するため、所属学科を越えた学科横断的な履修などを可能とするカリキュラムにする。
4. 個々の学生が多様な視点と深い専門性を獲得するため、対話型授業などを行う少人数教育の環境を整備する。特に、各学科の特性に応じ、卒業研究またはゼミ等への全員の参加を確保する。
5. 現場主義の実践的教育を通じ、学外の多様な人々との交流を通じた学びを重視する。

このため、できるだけ全学生が必ず各学科所定の現場体験学習プログラムを履修できるようにする。

6. 能動学習や課題解決型学習など、各授業科目の目標達成のために適切な方法による教育を実施、授業外課題などもシラバスに明示し、学生の主体的な学びを促す。
7. 各授業における到達目標に即した成績評価方法・基準を予めシラバスに明記し、授業実施後に成績評価を厳格に行うとともに、総合的な学習到達度を学生調査などで評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：募集停止に伴い、ホームページから削除）

（概要）

本学は「キリスト教精神と豊かな教養によって内面をはぐくみ、他者への愛と奉仕の心をもって社会に貢献する人間を育成する」ことを教育理念としている。また、この教育理念に基づき、教育の目的を「キリスト教の精神に基づき人格の陶冶をめざし、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究すると共に、国際的視野に立って文化の向上と人類の福祉に貢献できる人材を育成すること」と定めている。

そのため、以下のような学生を求める。

〔キリスト教の精神〕

キリスト教の愛と奉仕の精神に基づき、高い倫理観を持って他者への深い思いやりと理解、さらに協力、支援に努める人

〔基礎力と教養〕

社会人として期待されるコミュニケーション能力や豊かな教養、課題を解決する能力を身に付けたいと考えている人

〔意欲と行動力〕

大学生としての学修やその他の活動に意欲的かつ主体的・行動的に取り組む人

〔他者への貢献の志〕

国際的な視野に立って地域の発展や人々の幸福に貢献したいと考えている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ「大学組織」

<https://www.shokei.jp/guide/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
総合人間科学部	—	33人	24人	6人	0人	0人	63人
人文社会学群	—	7人	1人	1人	0人	0人	9人
心理・教育学群	—	12人	0人	2人	1人	0人	15人
健康栄養学群	—	1人	2人	1人	0人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		127人					127人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページ「教員紹介」 https://www.shokei.jp/institution/research/teacher					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
尚綱学院大学では、尚綱学院大学 FD・SD 委員会を中心に授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図る組織的な研修など研究や大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修を実施している。 2018年度は、次の通り実施した。 ○2018年9月19日 「キャンパスをひらく —地域との連携を中心として—」 ○2019年2月19日 新学群・学類制における学生の支援について ○2019年2月26日 大学における障がい学生支援 ○2019年3月12日 2019年度授業担当者 FD 研修会修学支援							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文社会学群	200人	251人	125.5%	200人	250人	125.0%	—人	—人
心理・教育学群	180人	187人	103.9%	180人	187人	103.9%	—人	—人
健康栄養学群	80人	88人	110.0%	80人	88人	110.0%	—人	—人
総合人間科学部	—人	—人	%	1,420人	1,520人	107.0%	50人	1人
合計	460人	526人	114.4%	1,880人	2,045人	108.8%	50人	1人
(備考) 学部改編に伴い、人文社会学群、心理・教育学群、健康栄養学群は1年次のみ、総合人間科学部は2～4年次のみ在籍しているため、定員数は学年に準じた数を記載している。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

総合人間 科学部	434人 (100%)	5人 (1%)	408人 (94%)	21人 (5%)
合計	434人 (100%)	5人 (1%)	408人 (94%)	21人 (5%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：尚絅学院大学大学院				
主な就職先：日清医療食品株式会社、宮城県教育委員会、仙台市・仙台市教育委員会、シダックス株式会社、株式会社ヨドバシカメラ、独立行政法人国立病院機構北海道東北グループ、株式会社日本アクア、渡辺パイプ株式会社、みやぎ生活協同組合、株式会社小泉 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合人間科学部	482人 (100%)	420人 (87.1%)	29人 (6.0%)	33人 (6.9%)	0人 (0%)
合計	482人 (100%)	420人 (87.1%)	29人 (6.0%)	33人 (6.9%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学の教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・態度を育成するため、次の方針に沿って編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育科目のみならず、専門教育科目においても、大学全体としてのディプロマ・ポリシーとの関連を意識した到達目標を掲げ、必修科目、選択科目を体系的に配置し、履修の要件を設定する。カリキュラム系統図、カリキュラムマップなどを明示するとともに、個々の学生が体系的な学びができるように支援する。 2. 学生の入学前の学習状況に配慮しつつ、大学の学びへと早期に転換を促す授業科目を配置する。 3. 多様な学生に対応し、所属学類を越えた分野横断的な履修などを可能とする。 4. 個々の学生が多様な視点と深い専門性を獲得するため、対話型授業などを行う少人数教育の環境を整備する。特に、各学類の特性に応じ、卒業研究またはゼミ等への全員の参加を確保する。 5. 現場主義の実践的教育を通じ、学外の多様な人々との交流を通じた学びを重視する。このため、全学生が各学類所定の現場体験学習プログラムを履修できるようにする。 6. 能動学習や課題解決型学習など、各授業科目の目標達成のために適切な方法による教育を実施し、授業外課題などもシラバスに明示し、学生の主体的な学びを促す。 7. 各授業における到達目標に即した成績評価方法・基準を予めシラバスに明記し、授業実施後に成績評価を厳格に行うとともに、総合的な学習到達度を学生調査などで評価する。 <p>本学ホームページ「教育方針」 https://www.shokei.jp/guide/policy.html 本学ホームページ「情報の公表について」 https://www.shokei.jp/disclosure/</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>成績評価は100点満点の素点で示している。100～90点をS評価、89～80点をA評価、79～70点をB評価、69～60点をC評価、59点以下をF評価としており、C評価以上を合格としている。その他、実験・実習など、素点では評価しにくい科目については、認定科目(N評価)として素点で示さずに評価している。</p> <p>(以下、様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】より再掲)</p> <p>学生の学習成果の達成意欲を高めるとともに、適切な履修指導や学修支援をする目的でGPA制度を導入している。「(履修登録単位数×その科目のGP)」を「履修登録単位数の合計」を除算し、算出している。また、成績通知書及び学生ポータルサイト上にGPA数値を公表し、学生本人のみならず、保護者にも周知している。</p> <p>本学ホームページ「単位・授業等」 https://www.shokei.jp/campuslife/credit.html</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文社会学群	人文社会学類	124単位	有	45-53単位
心理・教育学群	心理学類	124単位	有	45-53単位
	子ども学類	124単位	有	50-58単位
	学校教育学類	124単位	有	50-58単位
健康栄養学群	健康栄養学類	124単位	有	50-58単位
総合人間科学部	表現文化学科	124単位	有	45-53単位
	人間心理学科	124単位	有	45-53単位
	子ども学科	124単位	有	50-58単位
	現代社会学科	124単位	有	45-53単位
	環境構想学科	124単位	有	45-53単位
	健康栄養学科	124単位	有	50-58単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページ「単位・授業等」 https://www.shokei.jp/campuslife/credit.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページ「IR情報」 https://www.shokei.jp/disclosure/ir.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本学ホームページ「研究機関・施設」 https://www.shokei.jp/institution/ 本学ホームページ「情報の公表について」 https://www.shokei.jp/disclosure/</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文社会学群	人文社会学類	754,000 円	250,000 円	257,260 円	施設設備費、教育充実費、オリエンテーション経費 ※1 健康栄養学科のみ編入学が無い ため、入学金を非表示とした
心理・教育学群	心理学類	754,000 円	250,000 円	257,260 円	
	子ども学類	754,000 円	250,000 円	257,260 円	
	学校教育学類	754,000 円	250,000 円	257,260 円	
健康栄養学群	健康栄養学類	754,000 円	250,000 円	317,260 円	
総合人間科学部	表現文化学科	505,000 円	250,000 円	504,030 円	
	人間心理学科	505,000 円	250,000 円	504,030 円	
	子ども学科	505,000 円	250,000 円	504,030 円	
	現代社会学科	505,000 円	250,000 円	464,030 円	
	環境構想学科	505,000 円	250,000 円	504,030 円	
	健康栄養学科	505,000 円	※1	564,030 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>I. 学習サポートセンター (詳細の URL https://www.shokei.jp/institution/learning_support/) 本学では、学習サポートセンターを設置しており、全学生を対象に学習サポートを行うことを目的として、下記の支援を行っている。</p> <p>1. 学習サポートコースの開講 (レポート対策コース、英検・TOEIC 対策コース、英語基礎コース、総合英語 (アドバンス) コース)</p> <p>(1) レポート対策コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの書き方や文章の構成方法、論理的なまとめ方の学習等 ・パソコンを用いた作文・レポート作成方法等の学習 <p>(2) 英検・TOEIC 対策コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検・TOEIC 合格を目指す <p>(3) 英語基礎コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の苦手意識を克服し、英語の再履修をサポート <p>(4) 総合英語 (アドバンス) コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広いジャンルの英語を取り上げ、語彙強化、リーディング・リスニング力定着 <p>2. 学習サポートコース個別相談・個別授業の窓口開設 (レポート・小論文、英語、スピーキングラウンジ)</p> <p>(1) レポート・小論文個別相談・個別授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のレポート・卒論の書き方から、就職のための自己アピール文まで、色々な文章の書き方に関する質問や相談等と合わせ添削指導を実施 <p>(2) 英語個別相談・個別授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の質問、英検などの資格取得、大学院受験まで幅広く個別相談指導 <p>(3) スピーキングラウンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話を実践的に学び、英語で対話ができることの個別指導 <p>3. ピア・チューター (学生学習サポーター) による学習サポート (文章、英語、PC 操作) チューターの上位学年学生が、レポートの書き方や英語の学習相談 (英語に不安を持っている学生の相談)、パソコン操作に対応することをメインに、学習方法 (勉強のやり方、試験対策等) などをアドバイス、チューターは同じ学生という立場でサポートしてくれるので、安心して気軽にサポートを受けられる。</p> <p>4. その他、学習サポートに関する事業</p>

II. ラーニングステーション・ラーニングスポット

(詳細の URL <https://www.shokei.jp/institution/station/>)

1. ラーニングステーション

学生の自学自習や、グループワークでのディスカッションなどをより活発に、楽しく、快適に実践できる学習スペースを設置している。

- ・パソコンを使用した自学自習や、ホワイトボードを使用しているグループディスカッションが可能
- ・iPad やプロジェクター、スクリーンの貸し出しも可能

2. ラーニングスポット

パソコンが設置された個人学習向けのスペース

(経済面)

修学の意欲と能力がありながら経済的事情により学業を続けることが困難な学生に対し、一定の金額を給付または貸与する奨学金制度がある。

日本学生支援機構などの学外団体の奨学金のほか、以下の本学独自の奨学金制度(給付奨学金等)を設け、学生生活を送る上での経済的な負担を軽減し、学業に専念できるよう支援している。

1. 給付奨学金：家計の急変または経済的理由により修学が困難な学生を対象とした制度。2018年度は65名に給付。
2. 貸与奨学金：原則2年以上の学生が対象。緊急時対応の制度。
3. 外国人留学生授業料減免：外国人留学生の経済的負担を軽減するための制度。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

学生自らが興味・関心・能力に基づき進路を決定できるよう1年次より計画的・発展的な支援を組み立てている。教養教育科目の中にキャリア関連の授業科目を配置し、個々の目標に併せて履修することが可能となっている。

また、正課外では1年次より参加可能な各種資格・試験対策講座を実施すると共に、就職活動準備時期の3年次には定期的に就職ガイダンスを行い、就職活動のノウハウを学ぶことが出来る。

なお、少人数規模の大学であることを生かし、進路就職課のスタッフが学生一人ひとりの興味・関心・活動状況を把握すると共に、教員と情報を共有している。そのような教職協働によって、学生に寄り添った就職活動支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

学生支援センターにおいて学生生活部の下、学生の心身に関する支援を行っている。

学生支援センターは学生相談室と保健室に今年度から学生支援室が加わり3部署で構成され、常勤のカウンセラー1名、看護師2名、他に複数の教職員が関わり対応に当たっている。

保健室は個別相談や救急処置等の他に、定期健診の結果に基づく有所見学生に対する個別指導や感染症等の情報収集、ホームページを利用した予防指導等を行っている。

学生相談室は、学生の心身の健康増進を目的として定期的にセミナーや講演会等を開催し精神科嘱託医による「精神保健相談」を年4回実施、また、全学ワーキンググループによる諸活動を通じ学生に的確なサポートができるよう努めている。

学生支援室では配慮が必要な学生の支援が円滑に行えるよう体制の整備を始めている。現状は、学生が配慮(特別措置)申請書を提出することにより支援や配慮を受けることができ、アドバイザー等が当該学生と面談し配慮の内容を確認し、必要に応じて授業担当教員や施設担当者等に配慮の依頼を行っている。また学生との定期的な面談により申請の内容を確認し、必要に応じて内容の変更を行なっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「大学・大学院」及び「教員紹介」

・教育内容：<https://www.shokei.jp/faculty/>

・研究内容：<https://www.shokei.jp/institution/research/teacher/>
本学ホームページ「情報の公表について」

<https://www.shokei.jp/disclosure/>